

お忙しくても、約 2 分間で読めます

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 慢心の後、不祥事が起こる

1. 石屋製菓の石水勲前社長は、北海道土産「白い恋人」を一代で全国ブランドに育てた立志伝中の人物だ。地域貢献にも熱心で、1990 年代半ばには北海道初のプロサッカーチーム「コンサドーレ札幌」の誘致に奔走。札幌商工会議所の副会頭や札幌観光協会の副会長などの公職にも就いた。
2. 石水前社長は、いつから道を踏み外してしまったのか。石屋製菓は、1947 年の創業。創業者の息子である石水前社長が入社した 1967 年ごろは、駄菓子の製造を手掛けていた。だが、問屋に買いたたかれる毎日で、経営は苦しかった。そんな中で「自分で売り値を決めたい」と一念発起した石水前社長が、自ら開発したのが「白い恋人」。これが当たった。
3. だが、苦勞の末に成功を手にした石水前社長には、徐々に「慢心」を感じさせる言動が目立つようになっていった。例えば、従業員の処遇。高い利益を上げている割に、従業員の待遇は良くなかった。工場を着る作業服は、会社でクリーニングに出すのではなく、従業員に自宅で洗濯させていた。社員食堂もあったが、いつの間にか倉庫に変えられてしまった。昇格には石水前社長の意向が強く働くため、社員の間には不公平感が強く、離職率は高かった。つまり、石屋製菓の生産管理、組織管理の体制は企業規程に比して未発達だったのである。

(参考:「日経ベンチャー」2007 年 12 月号)

## 経営者のための危機管理

### 社員の謀反は経営者としての登竜門

#### 小嶋 勇 (日能研理事長)

1. その 3 人は、いちばん目を掛けていた社員だった。生徒から好かれ、よく働いてくれて、私も精いっぱいのことをしてあげていたつもりだった。7 年前のある日、その 1 人が「社長、話があります」と声をかけてきた。「独立させていただきます」と言う。聞けば、大切に考えていたその 3 人の社員と講師 7 人が一斉に辞めて、別の塾を始めると言う。
2. 思うに、社員が辞める、あるいは敵に回るということは、どんな会社でも覚悟しなければならぬこと。大切なのは、その危機と悔しさを、仕事の中でどうプラスに転じていけるかです。それは、経営者がステップアップするための、登竜門の一つです。出ていった人と自分とで、どちらがより成長し、どちらがよりお客様に喜ばれるか。そこを問われる機会です。

(参考:「日経ベンチャー」: 2007 年 12 月号)

## 心・健康・環境について

### 心を康らかに保つ

1. 安岡正篤に「五医」と題する言葉がある。
  - ① 欲を少なくして惑を医す
  - ② 静坐して躁(がさつさ)を医す
  - ③ 事を省いて忙を医す
  - ④ 友をえらんで迂(にぶさ)を医す
  - ⑤ 書を読んで俗を医す
2. 健康とは、健体(すこやかな体)と康心(やすらかな心)のことである。体を健やかに保つこと。それは天地から体を与えられた人間の務めである。そしてそれ以上に大事なのが、心を康らかに保つことだ。体が丈夫でも心が康らかでなかったら、健康とはいえない。

(参考:「致知」2008 年 1 月号)

## 古典に学ぶ

### 志は師に譲らず

「人事百般、すべて遜讓なるを要す。但だ志は則ち師に譲らずして可なり。又古人に譲らずして可なり」  
(訳) 世の中の諸々なことについてはへりくだり譲るべきだが、志だけは師や古人に譲ることはない。

(参考:佐藤一斎「言志四録」: PHP 文庫)